

「圧倒的な勝利者」

ローマ8：35－37

堀田修一 23・12・17

ローマ8章全体は、私たちに与えられた救いの確信、不動さを、たたみかけるように述べています。神である方が人となりクリスマスに救い主として生まれてくださった主、私たちのために罪が一つもない生涯を送り十字架で私たちの全ての罪を負い、身代わりに罪の刑罰を受け死なれ、三日目に死に勝利され復活された主を信じる信仰によって義と認められた私たちが、全員究極的な栄化（罪のない主の品性と病、弱さ、傷、障害、死のないよみがえりの栄光のからだをいただく）に達することは絶対に揺るぎないと語りかけています。「イエスは、いつも生きていて、彼ら（主を信じる私たち）のためにとりなしをしておられるので、ご自分によって（主の十字架の血の完璧な贖い、償いを信じ、罪のない主の義を着せられて）神に近づく人々を完全に（別訳：永遠に）救うことができになります」（ヘブル7：25）。「わたしはあなた（新約時代の教会を代表するペテロ）のために、あなたの信仰がなくならないように祈りました。ですから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちをカづけてやりなさい」（ルカ22：32）。

I 「だれが、私たちがキリストの愛から引き離すのですか。苦難ですか。苦悩ですか。迫害ですか。飢えですか。裸ですか。危険ですか。剣ですか。こう書かれています。『あなた（主）のために、私たちは休みなく殺され、屠られる羊と見なされています』：35、36。

1. 新約聖書が記された時代、初期のキリスト者たちは、キリスト者であるという理由で厳しい迫害を受けました。キリスト教を捨てて、「イエスが主ではなく、カイザル（ローマ皇帝）は主です」と言えと命じられました。その当時、「イエスは主（王の王、主、神、救い主）です」と信仰告白することは、迫害され殺されても良いという死の覚悟をもったの信仰告白でした。長い年月にわたり、キリスト者たちは、主のために「休みなく死に定められ、乏しくなり、悩まされ、苦しめられた」のです。

2. 私たちは、どのようにすれば、多くの苦難を耐え抜けるのでしょうか。厳しい苦難の中で私たちが、いつしか主から離れる者にならないのでしょうか。なぜなら、私たちは弱く、多くの敵によって、精神的にも、肉体的にも、その他の点で、打ち碎かれることがあり得るからです。私たちは、どのようにして多くの苦難に耐えられるのでしょうか。

3. その答えが本日のみことばの中に二つあります。①「私たち」の意味にあります。「私たち」とは、ただの「私たち」ではありません。神が「あらかじめ知っておられた私たち」「神があらかじめ救いに定められた私たち」「神が救いに召され招かれた私たち」「神が大切な御子をクリスマスに与え、私たちのために御子を十字架の死に渡されるほどに神に愛されている私たち」「神が義と認められた私たち」「神が主の再臨の時に栄光（救いの完成、栄化）を与えると約束されている私たち」です。励まされます。②「だれが、私たちがキリストの愛から引き離すのですか」のみことばで注目したいのは、「キリストの愛」です。キリストに対する「私たちの愛」（私たちの愛は変わり易く冷え易い愛）ではなく、私たちに對する「キリストの愛」という真理です。「私たちがつかんでいるキリストの愛から私たちが引き離すのはだれですか」。私たち

を愛してクリスマスに世に来られた方、私たちが愛して十字架で死なれた方、復活し、昇天し、今、神の右の座で愛をもってとりなしておられるキリストの御愛は、私たちを捕らえて離さない霊的な磁石です。何がキリストの愛から私たちを引き離すのでしょうか。偉大なキリストの愛から私たちを引き離すもの、主より力のある敵はいません。

Ⅱ「しかし、これらすべて（多くの苦難、迫害、敵の攻撃）においても、私たちが愛してくださった方によって、私たちは圧倒的な勝利者です」：37。

1. 私たちは、「私たちが愛してくださった方」によってこそ大勝利を得るのです。37節でも39節でも同じ確実な変わらない愛が語られます。この愛は、キリストに対する私たちの愛でも、父なる神に対する愛でもなく、私たちに對するキリストの愛であり、私たちに對する父なる神の愛です。

2. 興味深く大切な事は、「私たちが愛してくださった方によって」というみことばです。「私たちが愛してくださった方によって、私たちは圧倒的な勝利者です」。キリストは私たちのために死なれた。「実にキリストは、私たちがまだ弱かったころ、定められた時に、不敬虔な者たち（私たち）のために死んでくださいました。…私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死なれたことによって、神は私たちに對するご自分の愛を明らかにしておられます。…敵であった私たちが、御子の死によって神と和解させていただいたのなら、和解させていただいた私たちが、御子のいのちによって救われるのは、なおいっそう確かなことです」ローマ5：6－10。キリストが、まだ罪人であり、敵であり、神を汚す者であり、逆らう者であり、よそ者であった私たちのためにさえ、そこまで愛してくださったのなら、どれほどまさることを、今も、そのいのちと力と愛によって、私たちの救いが完成するまで働き続けられ（現に今、天でとりなし続けておられる）、ついには私たちに救いの完成の栄光（主の再臨の時に）に至らせてくださることを確信できます！

3. 34節にあるように、キリストは今や天で私たちの救いの完成のためにとりなしていてくださるのです。私たちに對するキリストの愛、また、キリストの御力こそ、私たちを支え、私たちが苦難や試練の中でも忍耐する力が与えられる恵みを確実にします。何事も私たちに對する主の愛から引き離すことはできません。なぜならそれは、キリストに對する私たちの愛が土台ではなく、私たちに對する先行的なキリストの愛が土台だからであり、主の愛は全能の愛だからです。

4. 聖書が「私たち」（複数形）と言われるとき、キリスト者一人一人と教会を指します。本日のみことばのキリストの愛は、私たち一人一人に對する愛と同時に教会（キリスト者の集まり、神の家族、公同の教会＝地と天での神の民の集まり）に對する愛です。「キリストが教会（公同の教会）を愛し、教会のためにご自分を献げられた…キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、ご自分で（罪の）しみや、しわや、そのようなものが何一つない、聖なるもの、傷のないものとなった栄光の教会（公同の教会）を、ご自分の前に立たせるためです」エペソ5：25－27。

Ⅲ「圧倒的な勝利者」

1. 私たちは、自分の力によってではなく、私たちが愛してくださった主によって、苦難や試練、敵の誘惑の中でも「圧倒的な勝利者」とならせただけなのです。勝利の御業を行われるのはキリストの愛です。この圧倒的な勝利、すべてが益となる恵みは28節に記されています。「神は、

すべてのことをともに働かせて益(勝利)とされる」。無意味な事、偶然に起こる事はありません。すべてに神の支配、益となるご計画があります！

2. 私たちは、苦難、試練により、神との関係が深まり拠り頼み方が真剣になります。主はその御心を私たちに向けておられ、私たちのための益となるご計画を持っておられます。私たちが試練や苦難に会う時、主は私たちに特別な励ましを与えて下さいます。私たちを助け、守り支え、微笑みかけてくださいます。多くの聖徒は、迫害の時が自分にとって祝福された時だったと証しています。詩篇の作者も語ります。「苦しみに会ったことは、私にとってしあわせ(神が近くなる恵み)でした」詩篇119:71。

※証し。説教後の応答の賛美359番の歌詞を噛みしめ、心から感謝しつつ主を賛美しましょう！
「私の望みは、主イエスだけにある この身をイエスより 離すものはない」